

国の果実生産・流通の安定を図るために「中央果実協会」という組織が東京にある。国産果実が供給過剰になった時に果汁を増やすなどして需給調整を行っている。

また、果実の消費拡大

同協会が2002年3月、リンゴの消費者嗜好

# 甘いふじ アジアで人気

「歯ざわり」だとして深いものだ」と改めて感じる。

全体の評価と糖度、硬度、酸度など機械で測定したデータとの相関関係は低く、辛うじて、糖度12度以下と硬度1・7キ

以下のリンゴは味の評価が低いという結果になったと紹介している。

同様の調査で、ミカンを対象に行った場合は、甘いものほど評価が高く、酸っぱいものの評価が低いという結果だった。リンゴの嗜好は、「歯ざわり」という、官能的な要素に占められ、奥の

リンゴをかじった時に、口の中に広がる甘さ、酸味、果汁、歯ごたえなどの総合評価がリンゴの命ということだろう。

しかし、リンゴの好みは地域差も大きいようだ。外国においては、欧米系とアジア系では、全くリンゴの嗜好が異なっている。

欧米人は顎の骨が発達しているので、硬くて小玉のリンゴが好まれ、品種ではデリシヤス系が依然としてトップだ。これ

に対してアジア人は甘いふじが大好きだ。所変われば品変わる。

（県りんご輸出協会事務局長 深澤守）



## 消費者の嗜好

のために「毎日くだもの200グラム運動」や内外の果樹産業の調査や情報提供も行っている。

特に世界の果実関連情報には定評があるので、興味のある方はアクセス

上で最も重視するのは

国産リンゴの好みを知ることは基本だ。

（県りんご輸出協会事務局長 深澤守）



香港で開催したアジア・フルーツ・ロジステカ（国際青果物見本市）で、リンゴを紹介するフランスの貿易業者（9月7日）